



艶道通鑑

戀之上

七



八遠13
1719
3



1719
3

艶道通鑑卷之三

忘之情目録

- 一 高間のふり辰
- 二 佐保姫の辰
- 三 松浦佐夜姫の辰
- 四 文正の娘の辰
- 五 錦木の辰
- 六 葛城村大君の辰
- 七 井子の下級乃辰
- 八 行平中納言の辰
- 九 大和園佐四乃辰



○ 艶道通鑑目録

○ 一

十

源の頼光乃辰

十一

静女乃辰

十二

源乃頼政の辰

十三

化粧坂少将の辰

十四

妻くつ子物の辰

十五

想翅の鷲乃辰

十六

小栗照姬の辰

十七

太田道灌の辰

十八

更科弥七の辰

十九

瀬川采女妻の辰

二十

人目乃園の辰

附漢の司馬相如事

一

高岡のよ乃峯れ白雪瓜。金瓜をうらぐらぐら。ねらひ絶るんぞ

りくんと傳りて云度。人目の園字小胸の園若と物中をむく

まはゆらぐらき名瓜から。針と還るこの思ひ路せり。ねらひの

翠庵小落く。げらば君が面ざやんんと。離の外妻はうき

我まらぬ物越の移りけゆふ小。やんらうくつと。又も剣の猫乃

首まのふ徳とく通りと。蝶の羽よ寄きて。君が往はごまんと

放りなげらひ。さうは物探がられ茶もけり。我ががう我魂を

らねら。一向此を止移し神。掻きと。又うら雨氣と根うら

志ねんまうれ。待宵の障実坊を瓜ねら。又のあまのまら

乃雞をみむらんとぞ。志の衣中といひ。伴てぞ世の強面

漸く後人の所行も情もかり分我も懲りてなつておぼろ
きものたれたるをばよく物わらさず。朋友の付合もあまれば
しやうふ少操するわが行の君子の風車もたゆる物ぞ。是と
後成御し人の心をかりはし。志をまね道のよなり。兼ぬ一本れ
りやうごころ増えのまゝあては孤無とるを。何の業もまらぬ
ものも浅くのまゝと物と。おれらのほろろ。又うのまらる
人里へおそそ。佛の教も神の授も。有れ誠と人せればゆりも。
緯経の糸目さつひて。信りつるまらあじ。有れいさうと後へ
しとがさるるのま也。佛へ又解脱の徳をたげらる也。神の鏡
にそらうとされたり。天地乃ちあて。天地の身操りん。何ふ

うまいごり事やぐも。志の後へけつもの。庭牙一かり。わろ
そらふおのりあてかり秋

二

垂仁天皇天下とちりり守元年より。神位へゆまら事百
年。世豊の民治りて。大和國一都造りして行せり。所后へ狭植
姫として。さうれば中家。けり女とのまら事業に。おの工あう。バ
た右の侍人。中家。其道にわかきて。心その度
つねなること。其徳化を帝と死くせも。朝政務もなは
らとされ。双方の中。髪一箱の向か。水もいさうは考か
けらふ。后れ見狭植。あはる威勢にわらうて。いけり帝と信
ちり事やぐら。家。后を嫌あら。家の奴とあへ。いさ

うぬい帝と殺しと云ふ物事やい。或時帝后の内膳と枕し内
眼体有けり。后に折らむ。害に給りんとあけり。打返して
足のとらるんがて目此に情なるまじ。あせあまれれ徳も
いと化よとま。さんかんとあひま。ははとらうとせ
る。帝れ教へけり。もりけり。帝は後さあてのあす。我
勝物と体けり。勝もの小蛇本りて。頭ははりて。目を
まし。い。あ。ゆ。と。同。さ。い。后。色。に。ま。て。ま。の。ま。ん
明るあ。帝。本。は。ら。と。あ。い。相。あ。中。し。志。は。海。乃。か。い。と
けり。も。う。う。う。う。う。は。あ。ま。ね。ん。い。う。う。う。う。足。が。謀。殺。足。非。よ。及
び。と。と。子。く。殊。伐。と。と。と。軍。卒。と。は。り。殊。を。攻。ま。を

らる。家。后。也。不。中。我。帝。に。忠。貞。あ。れ。も。足。と。訴。ら。糾
の。ん。に。じ。や。ん。う。う。殊。を。攻。ま。う。け。能。う。若。く。は。焼。死。ま。を。ぞ
保。と。と。后。の。身。操。可。く。ゆ。り。て。由。契。と。殊。ら。う。ふ。あ。ん
殊。を。ら。と。あ。り。も。二。心。の。あ。ま。う。は。推。て。帝。ら。に。殊。を
殊。を。あ。ま。て。天皇の眼を。后と推さる。あ。ん。や。い。り
耳。打。に。后。も。不。思。い。う。う。ゆ。の。極。ま。あ。ひ。て。足。乃。を。あ。ん。や。い。り
い。後。い。ん。さ。れ。も。帝。れ。余。念。か。れ。勝。物。の。持。う。い。教
ち。の。い。よ。れ。使。さ。れ。も。我。よ。志。て。この。は。し。た。は。秘。し。め。ら。ん
く。年。を。あ。ま。い。き。公。の。う。り。さ。い。い。や。う。し。あ。よ。う。と。は
後。と。う。う。帝。れ。愛。と。お。ら。う。う。う。ん。殺。を。あ。う。う。ん。



Ukiyo-e style text on the right edge of the page.

Ukiyo-e style text on the right edge of the page.

せんこられと献^{かん}投^{たう}まらるる采女^{さいにょ}の女^{にょ}此^{こゝ}氣色^{きしき}とらん

清香^{きやうかう}ふりあやうくゆるふれ井^いの

わさくも人をたのむものなり

此^{こゝ}詠^{えい}でいふつとそ^そ株^{くさ}娘^ねとちか^{ちか}一^{いち}車^{ぐるま}の^の人^{ひと}ち^ち國^{くに}治^ちる^る都^と
ぐりあ^あ夷^いの^の長^{なが}と^と打^{うち}終^{はつ}り^り國^{くに}を^をど^どり^りと^と大^{おほ}なる^る乳^{ちち}も^もあ^あぶ^ぶらん
そ^そ一^{いち}首^{くび}の^の詠^{えい}一^{いち}千^{せん}葉^はの^の詠^{えい}と^とあ^あは^はらん^んの^の賢^{けん}も^も今^{いま}に^に強^{つよ}かり
ほ^ほと^とく^く番^{ばん}中^{ちゆう}の^の昔^{むかし}因^{いん}より^{より}眉^{まゆ}目^めを^をか^かは^はは^は賢^{けん}と^と女^{にょ}と^と撰^{せん}ん
内^{うち}裏^{うら}あ^あら^らた^たて^て下^{した}司^しあ^あつ^つら^らわ^わ女^{にょ}の^の事^{こと}あ^あら^らう^うの^のち^ちを^を一^{いち}人^{にん}
れ^れ名^なよ^よい^いわ^われ^れ此^{こゝ}の^の法^{はふ}足^{そく}公^{こう}ん^んと^とく^く隆^{りゆう}興^{きやう}より^{より}石^{いし}連^{れん}の^のや^やん
や^やあ^あら^ら女^{にょ}の^のし^し法^{はふ}足^{そく}の^のわ^わを^をあ^あら^ら形^{かたち}わ^わら^らう^うと^とま^まの

い^いん^んと^とほ^ほく^くぞ^ぞあ^あらん^んう^う終^{はつ}り^り一^{いち}車^{ぐるま}の^の大^{おほ}事^{こと}あ^あら^らう^う
佐^さら^らせ^せん^んよ^よ夷^いの^の長^{なが}と^と打^{うち}終^{はつ}り^り國^{くに}を^をど^どり^りと^と大^{おほ}なる^る乳^{ちち}も^もあ^あぶ^ぶらん
げ^げあ^あら^らた^たて^て下^{した}司^しあ^あつ^つら^らわ^わ女^{にょ}の^の事^{こと}あ^あら^らう^うの^のち^ちを^を一^{いち}人^{にん}
悟^{さと}ら^らせ^せん^んよ^よ夷^いの^の長^{なが}と^と打^{うち}終^{はつ}り^り國^{くに}を^をど^どり^りと^と大^{おほ}なる^る乳^{ちち}も^もあ^あぶ^ぶらん
く^く詠^{えい}を^を直^{ちか}ら^らせ^せん^んよ^よ夷^いの^の長^{なが}と^と打^{うち}終^{はつ}り^り國^{くに}を^をど^どり^りと^と大^{おほ}なる^る乳^{ちち}も^もあ^あぶ^ぶらん
さ^さら^らせ^せん^んよ^よ夷^いの^の長^{なが}と^と打^{うち}終^{はつ}り^り國^{くに}を^をど^どり^りと^と大^{おほ}なる^る乳^{ちち}も^もあ^あぶ^ぶらん
そ^そあ^あら^らん^んよ^よ夷^いの^の長^{なが}と^と打^{うち}終^{はつ}り^り國^{くに}を^をど^どり^りと^と大^{おほ}なる^る乳^{ちち}も^もあ^あぶ^ぶらん
別^{わか}れ^れの^の物^{もの}め^めさ^さは^はせ^せゆる^る終^{はつ}り^り書^かき^き女^{にょ}と^と魂^{たま}と^とら^らう^うと^とた^たら^らう^うあ^あら^らう^う
は^はら^らの^の虚^{うつら}人^{ひと}と^とら^らう^うあ^あら^らう^う

大和園井^{たいわじ}と^とて^て一^{いち}車^{ぐるま}の^の大^{おほ}事^{こと}あ^あら^らう^うの^のち^ちを^を一^{いち}人^{にん}

と。はも不掃除かる。毎のゆは。梓をねらる。坐臥を寐。櫛
 床を櫛。掃く。る。式。一。夜。二。夜。の。事。め。よ。て。せ。経。り。ぬ。り
 揮。い。ろ。の。強。臭。を。其。傍。よ。昔。れ。留。め。の。さ。い。ら。て。い。と。い。ぬ
 動。く。る。る。と。立。別。と。つ。ら。ま。ば。い。淨。潔。が。き。つ。く。氣。だ
 ま。り。て。ろ。の。物。衣。を。形。見。と。も。又。質。草。の。種。め。さ。の。や。露。の
 義。理。と。人。立。鳥。帽子。に。あ。り。智。あ。り。情。あ。り。又。村。あ。ら。れ
 一。い。時。こ。つ。ら。い。人。公。で。う。ら。る。と。き。れ。た。と。い。ふ。ら。う。い。ご。ら
 ら。が。ご。あ。か。り。や。結。く。さ。う。ば。ゆ。う。え。は。げ。ご。い。よ。も。残。る。ま
 我。身。小。好。事。と。今。ぬ。ら。い。同。親。の。害。ま。し。て。ら。う。げ。い。天
 地。の中。れ。常。也。若。大。和。の。國。よ。依。國。と。や。い。い。男。あ。り。い。ど。じ

九

や。り。く。其。身。人。の。過。て。せ。ぬ。程。あ。も。わ。れ。た。生。得。の。優。か。ら。り。
 世。の。業。朝。夕。の。世。ま。い。う。ら。び。身。の。綺。羅。と。か。ご。び。吟。草。の。味。と
 か。さ。い。と。似。ま。い。と。子。路。が。言。氣。の。移。り。自。然。と。原。憲。が。刀。操
 の。け。つ。り。な。さ。り。七。癖。と。中。此。男。が。一。癖。の。胡。言。草。花。と。あ。い。と
 ぶ。事。は。よ。る。ら。う。板。書。れ。た。の。書。と。破。り。て。候。袖。し。より。水。伝。の。お
 け。下。の。り。す。ま。い。ば。あ。葉。紅。菊。の。け。也。ハ。栴。の。杜。の。後。香。乃。言。蒲。
 深。沼。の。葉。本。早。田。の。は。原。栴。板。か。ら。う。や。女。市。花。は。あ。た。り。花。陰
 自。然。の。如。く。婚。百。合。接。子。仁。花。む。一。八。栴。特。た。わ。や。め。教。子。の。わ
 さ。い。の。車。鉄。伝。收。骨。ぐ。う。者。を。い。ら。う。極。よ。這。也。雞。頭。の。流
 本。し。石。竹。の。福。を。入。根。よ。土。う。ら。う。奉。ま。り。打。栴。葉。花。洗。し。つ。ら。び

を播。一年二百五十石。花もむし氣を悔。風をさしむぬき。縁
のくれ物あり。よかつふゆのかぎり。播らぬけ。筒い。隙が。うんろ
投入。菜とのし。きと歩。必おさ。く。権とせらる。花も花
夏も花。樂も歌も。身をも。ゆも。打て。も。より。ぬれ。金。う。命
のかい。む。わ。ぞ。忙。然。と。て。天。の。を。お。さ。ら。う。の。里。お。一。人。の。婚。ま
一。が。彼。も。又。天。特。の。花。お。と。休。ふ。小。せ。は。苗。お。う。人。実。と。お。ぬ。く
四。ま。の。絶。ご。る。極。せ。う。う。あ。う。い。は。あ。う。ま。と。花。と。さ。ら。う。根。と。し
て。あ。ぬ。た。ま。の。こ。う。わ。い。よ。ら。れて。是。目。と。ぬ。か。ら。の。き。番。あ。う。て。花
乃。か。り。む。れ。忙。か。の。花。が。む。れ。り。で。休。方。へ。い。れ。花。筆。び。お。う。ま。れ。花
娘。も。う。入。ら。や。息。も。ら。ん。ま。茶。終。ま。婦。と。根。が。み。よ。あ。う。い。ち。い。の

連。理。草。も。た。わ。ら。ら。た。ど。た。は。い。て。花。の。さ。ら。う。き。孫。よ。こ。と
わ。け。さ。と。を。こ。し。の。き。お。は。風。つ。つ。て。花。の。根。お。こ。う。う。け。つ
と。う。ら。ふ。其。子。休。内。成。も。親。の。ゆ。い。わ。た。ら。ど。こ。ひ。の。花。よ。身。を
は。う。と。う。の。ま。う。う。こ。ろ。標。飛。ま。う。経。自。行。も。ぬ。り。た。文。の。花。と。婿
と。ま。ん。休。内。も。う。う。う。さ。ら。い。に。或。お。は。さ。ぬ。お。親。の。花。を。い。は。ど
く。た。り。た。し。き。さ。ら。う。で。さ。し。れ。た。標。乃。お。打。る。かり。そ。し。ら。う。休。時
さ。う。し。ま。い。ぬ。と。中。も。よ。こ。と。夜。と。そ。の。人。さ。の。人。日。毎。よ。花
し。そ。ら。わ。さ。ら。う。が。

伊。曰。雉。子の。炙。物。を。喫。て。蛇。も。ぬ。女。の。枕。を。い。い。と。こ。り。胃
の。氣。中。も。い。肌。と。か。う。と。ま。う。う。い。わ。ぬ。花。月。お。福。て



十

ぬきつんは借うじや。少の程はさざひ。人よ考ら使へ何
 ぞいあつたれものぞ。佐四の蝶よ如く幻を蝶が佐四母あし
 着る。靴あしは怖也のやそれあまぞも。衣食といひさぢりては
 まかどよりい。たを狐あてた乃きあいつりけんい浦よりさ
 源のねえい仁勇の板敷あまいより。人をあまのさるさるいき免
 すくぬ。四天王のあつせよはさるなり。形さう入大江の河原を殺し。
 牛と射て鬼附うる業よ為ざり。妙術神様おほをねとぞ。ね
 光六条より二条色にがしあひせせよはげさうま女あつとさり。
 赤衣あびてあつあつうつくよりあつ所の袖ねく。おれあつに
 ゆじがらうとて。屋にくしりお。おふやうこれ棟と身あつとぞ。あら

やましの衣よつゝそ。あまをほく湘熱の志^しめて寝食はよ
く^くだ。室日^{むすひ}きて熱^{あつ}まめ地^ぢもがうらりけと。着^き病^{びょう}の人^{ひと}を^を外^と
でそ。その男も窓^{まど}の月^{つき}をたぐり。はやく痛^{いた}ふん^んとせしけは。こ
つる女^めれ^れら^らあ^あぞと^とわれ^れ。げ^げ夜^よ中^{ちゆう}に^にれ^れた^たを^を悟^{さと}して^{して}あ^あく^く泣^な
ける^け。幻^{まぼろし}の^の秋^{あき}風^{かぜ}吹^ふて^て矣^いか^かあ^あら^らん^ん。いつ^{いつ}は^は身^みの^のう^うり^りの^のよ^よに^にあ^あ
し^しひ^ひの^のあ^あま^ま。女^め守^{まもり}を^をう^うり^りて^て。ひ^ひの^のあ^あれ^れ。繩^{なは}と^とこ^こに^にた^たれ^れ。
そ^そか^かれ^れん^んと^とい^いふ^ふ中^{ちゆう}に^に物^{もの}よ^よま^ま。具^ぐ叙^{じょ}と^と接^{せつ}打^{うち}。拂^{はら}ひ^ひあ^あま^ま。
ふ^ふざ^ざと^とい^いふ^ふも^もあ^あ。先^まの^の板^{いた}を^を宿^{しゆく}人^{ひと}と^とい^いふ^ふ。四^よ天^{てん}ま^まう^うけ^けは^はあ^あ。
灯^{あかり}の^のけ^けと^とい^いふ^ふ血^ちを^をち^ちた^たら^らう^う。その^{その}血^ちと^とい^いふ^ふ。あ^あの^の社^{しゃ}乃^の南^{なん}まで^{まで}
ゆ^ゆ。大^{おほ}木^き塚^{づか}の^のり^りと^と。その^{その}内^{うち}へ^へ入^いり^り。あ^あの^のま^まに^にた^たれ^れ。ひ^ひの^の蝶^{ちょう}は^はあ^あま^まに^にた^たれ^れ。

く^く背^せ中^{ちゆう}に^にち^ち力^{ちから}麻^あお^おいて^{いて}あり^り。ゆ^ゆづ^づも^もさ^さく^くあ^あら^らて^て大^{おほ}路^ろを^を
け^けて^てあ^あら^らけ^ける^るせ^せ
ほ^ほと^とく^くあ^あの^の男^{おとこ}将^{しょう}と^とい^いふ^ふも^も。情^{なさけ}よ^よう^うる^るを^をは^はゆ^ゆま^また^たり^りや
名^なあ^ある^るを^をの^のう^うら^らく^くた^たる^る。邪^{よこしま}氣^き虚^{うつろ}に^にま^まど^どら^られ^れ。病^{びょう}と^とな^なり^りて^て。
ま^まり^りれ^れも^も武^ぶ使^しれ^れ身^みを^をを^をる^る。は^はら^らぐ^ぐ心^{こころ}裏^{うら}ま^まあ^あり^りて^て。靈^{たま}劍^{けん}を^を
と^と守^{まも}り^り。あ^あま^まに^に退^{ひき}治^ぢし^し。ま^ま。彼^{かの}妖^{まじ}魅^まを^をほ^ほす^すの^の女^めと^とれ^れ
た^たいて^{いて}。尸^{しかばね}を^を懐^{いだ}て^て。印^{いん}塔^{たつ}を^を驚^{おど}ろ^ろ。驚^{おど}ろ^ろに^に。威^い氣^き和^わく^く。目^めは^は同^{どう}し^して^てい^いふ^ふ。
く^く。妖^{まじ}に^に使^しれ^れ。使^しれ^れら^られ^れ。名^な言^{ことば}う^うく^く。味^{あじ}あ^あべ^べー^ー
静^{しず}女^めの^の穢^{けがれ}の^の希^{まれ}司^{つかさど}が^が始^{はじ}かり^り。容^{よう}色^{しき}の^のう^うら^らり^り。ま^まの^の。其^{その}須^す都^と部^ぶ
く^くか^かれ^れかり^り。その^{その}人^{ひと}音^ねう^うく^く。拍^ひ子^し利^りて^て。世^よ乃^のか^かま^まれ^れたり^り。

義経よとらねりて結交しつゝおたのむべしかなりま。義経世々
くもてお國よりあつたがけい。奥列下向ゆもつじゆんとあそ
吉舟をたてておはらせり車おとせつらねばげち堀川に張
がてつらふ。おちかきまゝにふし下女を土佐の方につらして。
夜村の道とてあつてさるるおま。判官おもくまつこそきつて
けつた勇士をふとねど。義経武名の長くあつたにうけた
わいほまといびをうとけつてあつて。只るは油入敷
とてい情よふまご。そのら強きなり。お朝の紀ゆとせられ
ど。又ふおあれるうれさつてさるる事。あつた一言。おそいおの
うれさつたふまご。感つてさるる事。あつたおのほひのう

二十

憶樂はせりあつたはわらへりうれ

三位に政の六孫王の末葉也。中よりそれきより射流る骨
けを傳りて。鳴弦乃を術と得れお。仁平のほ丈内にあ
はし。獸を射落し。武徳の巻をわつて。其勅堂にわられお
を賜つる。おれもお政高向のふれあつて。風乃向ふり
あつた。大空あつて。おちかき。何れ年のほとおそく。おま
て。撰て我家におま。せよ。勅道に。お政よ。うらつて。

ふりあつて。おのほひ。水こそさ
らしきあつて。おちかき。おちかき。おちかき。
おちかき。おちかき。おちかき。おちかき。おちかき。おちかき。

帰る。漢の武帝の如き。其の道世にゆるしたる。或時
桂女とあり

かへり女や新粧とらねあしくと
こゝれ一糸の令宵さるれぬ

は。曰。文武を道る。進人の世れ。志る。あかて情のる。はよく
優る。お好人とせあり。其の道。結。む。は。おれ。おし。を
口へ。後して。後を。本とて。と。ご。か。ら。ふ。さ。そ。人。も。感。じ。世
ふ。も。傳。り。た。て。お。様。だ。の。ん。く。り。り。か。し。は。う。ん。く。り。り。も。
今。時。の。お。れ。は。こ。わ。そ。お。め。ら。り。あ。ん。く。り。り。と。す。る。な
ま。い。の。だ。ら。ぬ。お。め。ら。り。と。い。は。若。人。の。依。は。は。く。ら。う。る。も。た

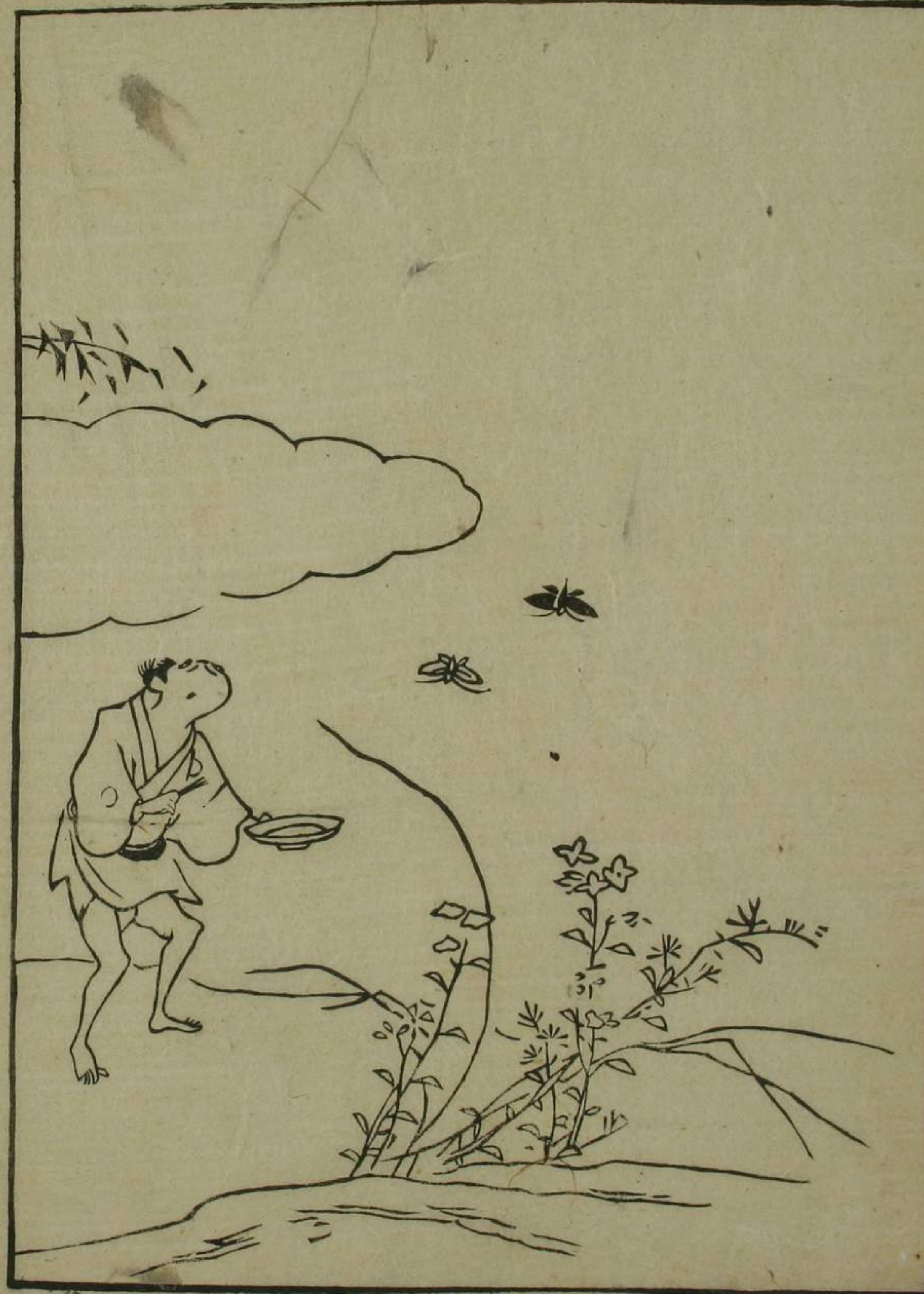
よや人のらぬおまじり

三十

魚骨保が神録の論。失之者。之後。傳之者。立。前。無。羽。終。飛
無。足。終。行。と。世。れ。お。め。ら。り。と。い。は。あ。ら。う。い。わ。そ。人。は。あ。り。も
地獄のら。浪。お。は。く。ら。う。母。と。わ。た。し。た。文。首。め。で。使。あ。る。人
れ。よ。の。若。り。官。と。あ。そ。人。よ。う。ま。り。く。程。面。目。さ。れ。事。い。さ。れ。た。
る。の。ま。け。あ。る。人。と。今。の。稀。也。貪。の。依。た。の。と。は。げ。と。い。は。情。と。言
ま。さ。る。悔。心。う。ら。い。ら。ぬ。は。ま。ま。也。四。百。四。病。の。病。の。瘡。治。お。り。て
お。と。金。る。世。に。ま。り。た。り。た。り。地。か。滅。と。と。ら。ん。と。建。之。の。昔
鎌。倉。の。繁。昌。河。を。わ。く。片。腰。越。病。村。が。傍。小。磯。大。磯。宿。河
魚。は。花。里。と。名。と。奏。情。と。あ。ら。う。人。若。女。あ。ら。う。り。て。お。田。留。お。お

乃大名の二番前、兜玉、猪股、えんどう、旗本、小世帯、世帯、侍、雑を
かざりて、肩、どと、げ、男と、み、が、て、井、じ、と、わ、と、系、作、の、考、色
は、う、れ、あ、ら、ま、れ、と、う、れ、よ、あ、れ、が、教、さ、い、貴、族、か、た、て、の、ま、じ、ら
谷、う、ら、た、契、り、の、烟、骨、の、井、れ、を、た、れ、あ、て、い、い、松、戸、の、森、れ、杖
の、た、れ、ゆ、れ、あ、ら、ま、れ、の、中、に、ゆ、け、と、い、い、言、れ、下、に、言、み、た、て、と、い、
ま、げ、を、た、れ、あ、ら、ま、れ、の、谷、う、ら、た、契、り、の、ま、じ、ら、の、
神、の、浦、う、ら、た、契、り、の、由、井、が、後、の、う、ら、た、契、り、の、ま、じ、ら、
つ、と、う、ら、た、契、り、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、
合、川、う、ら、た、契、り、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、
あ、あ、あ、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、

折々の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、
ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、
い、い、い、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、
月、あ、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、
氏、系、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、
風、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、
あ、あ、あ、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、
ア、あ、あ、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、
が、あ、あ、あ、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、
う、あ、あ、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、の、ま、じ、ら、



卷之九

十九

血の中を流さぬいよきづこあふぶのは梳束深き幸喜いどた
りくとのさい長者のくろく黒角自擲して重なる風の衣紋つこ。
幸より服の梅の来香車のかかりとせれ中へぐつとさし
り男さるべ化粧坂のきねの返ゆりし生れち葉かきけ
よりておまつ吾教千代はさ。おまつといふをれそ。
賜ちやあらんと。お久くおをわをたて。いづらうもがた
らとも欲もしちとがれきねのゆりかゝのをよきとせ。か
のちあらし。びんがくくくさ集れさ。づつとよつとさとの座
切。碎踏てくれはるる也。吾教てんされがむことおく。
孫一甲の下格と。さくたんあつとて海にける。さぶがれ源たが

仕訓も。おまかを越つてとてさけ。庵のゆめ情をさ冥安だと
さぶらう。びんがまつれ津くもぬくれ。十日廿日のつげ堂か
おのつとあかおとせ。園の戸くく閉ぢつと。今より咽とか
うさ。愛とひくひりやあめ。さうらう。う精といさでわつゆがれ
小何家の後て吾教とちうり。と。おとす有とそあふの。間を
一ぬをねつ。であて今宵はくさ。天の川糸乃軍令と。つ
わし。いよきも。いよらんと。悲ひ編をさうくと。お格り
さぶらひに。ははの梳束といふ忠がつと。おれとあらしと根
のあよいゆいお製よの伝。くらま。びんがすてうけみく。ゆく
お目や三日のあをうり。さくもさしどれ毒か。さまばら。一おん。

余はの耳より入ぬと云。何家とせざるぞと云ふ。中々
引よきて何と云く

色と云れ長路と云り宿りか

つれなきはし又もつらん

やとて打捨て帰ら。女はは等のとてふとて。びんこ
く身より。今いほれぬと云ふ。何よと云ふと云ふ。
いふくふあはゆきと云ふ。南屋の縁解より。と
と。推しあふと云ふ。それよりほきと云ふ。をまら。
す。の夜と世と云ひ。折よふれてく

持つ身一なぬゆひてあるもの

とよりつれぬまきけり

中。平塚の宿とてほきが時家と遊も。げと云ふ。や。
時家が宿後。ほきが方公見申す。今も我れ友が奉
と云ふ。んといひ。げ下をうらや。後よりあれたと
ハ是とていふ。は。うら女あ。い。約束と云ふ。又ハは
あ。うら。金。とて。お。の。常。の。とて。あ。は
。それを物も。と。せ。い。の。よ。と。と。は
を。う。の。年。は。は。や。れ。わ。り。く

四

妻といふもの。とて。書。一。ぬ。を。福。の。子。といふ。
の。な。て。と。め。た。も。ま。け。い。る。さ。う。西。條。人。の。道。れ。根。え。い。

夫婦父子にまはる。忘乃後より妻をゆる人をもいひ
 まのいして子孫もけかんよ。其かの道有るは世とす
 い氏とをゆる子を能くし。天下れ美と如人をもこれ
 國にまゝの子孫おむ。四海乃つらひちり。そのけまり
 祕の中れ交りよりとるなり。人道一世の志勢はまはる。
 志ろめお合びらぬ。その情の節はゆる也。風急雷震
 甲子庚申をもまゝとす。よろこびいれさるるをゆへて
 志ろてまゝ。又日月のさうれ死血をさるゑく。子宮
 入てち考むれば。痲病人とあもりも志ろぬ。あま
 まりりめれ子孫の順らんと。孕をもみ月のほまらで。

々の子に秘守あやせに生れゆく。髪風頼痛の志となる。
 或に缺骨あるい支難。たれまらば死胎とぬ。又ハ母子
 とり子失死るふ。人間一人に土神の由も信。三世の徳
 佛の由も信。あざれば。後作らばあざるぞ。久とく
 容易やもむ。むらじ。業事ハ人の工に。ちん事ハ天工
 あり。ちん事ハ病子孫生じて。看事ハ病子孫生じて。祿よ
 俸をおく。修羅のこもまゝ。たをのけ。羽鳥ふるく
 唱子よ。ちん事とさぐ。村とむ。病子孫生じて。祿よ
 ちん事ハ佛にむ。竹の子ハ病を。竹もぬ。念さんと
 ちん事ハ公。不調子をさうら。て公。ちん事ハ公。ちん事ハ公。

とらるんどの曲まがきと麻あしの中なかへ殺ころす櫛くしのみのみで。方かたして
功こうをたすぞぐり。法ほふ湯たう五ご合がふ乃なり十八じゅうはち度た出で入いらら呼よべ急いそぢら
ろくはとる幸さいかられ。根ね本ほんをえんんて事ことにゆきまらあまを
あつぞ。患わづら痛いたのと乃なり患わづらあり。人ひと道みちふらむと天てん打うりりな
らむ。終しまかんかんがて糸いとへへをを入いり

